

令和5年12月7日

京都市文化市民局
〔担当：文化芸術都市推進室〕
電話：文化芸術企画課 075-222-3119

令和5年度京都市文化功労者の表彰

京都市では、毎年、永年にわたり本市の文化の向上に多大な御功労をいただいた方々を「京都市文化功労者」として表彰しています。

この度、令和5年度の文化功労者を表彰し、12月14日（木）に表彰式を行います。

なお、この制度は昭和43年度に創設し、令和4年度までに計306名の方々を表彰しています。

1 被表彰者 ※敬称略・五十音順

いまむら	はじめ	今村 源	(彫刻)
おおの	かつお	大野 克夫	(音楽 (ロック・作曲))
こだま	やすえ	児玉 靖枝	(洋画)
さとう	よういちろう	佐藤 洋一郎	(学術 (食文化))
にしかわ	ゆうこ	西川 祐子	(学術 (文学研究・ジェンダー論))
にしひさまつ	よしお	西久松 吉雄	(日本画)
ふじやま	なおみ	藤山 直美	(演劇 (俳優))
やぎ	あきら	八木 明	(陶芸)
やまぎわ	じゅいち	山極 壽一	(学術 (人類学・霊長類学))

2 表彰式

(1) 日時

令和5年12月14日（木） 午前10時45分～

(2) 場所

京都市役所 本庁舎4階 正庁の間

(3) 出席者

被表彰者及び同伴者

西村 義直	京都市会議長
平山 よしかず	京都市会副議長
江村 理紗	京都市会文教はぐくみ委員会委員長
棕田 隆知	京都市会文教はぐくみ委員会副委員長
山本 陽子	京都市会文教はぐくみ委員会副委員長
篠原 資明	京都市文化功労者審査会委員代表
門川 大作	京都市長
吉田 良比呂	京都市副市長
砂川 敬	京都市文化芸術政策監

(4) 次第

開会

来賓紹介

表彰状の授与

挨拶

門川 大作

京都市長

祝辞

西村 義直

京都市会議長

祝辞・功績紹介

篠原 資明

京都市文化功労者審査会委員代表

被表彰者御挨拶

閉会

今村 源

いまむら はじめ (66歳)
彫刻／京都市中京区



【功績】

昭和58年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。1980年代前半より京都を拠点に制作活動をスタートさせる。ボール紙、発泡スチロール、石膏、針金、ビニールなどの日々の生活の中にある軽い素材を用いて、既存の価値観を揺さぶるような浮遊感あふれる彫刻を制作し、そのいずれにも寄らない独自の哲学的作風で、早くから注目を集めてきた。

森の地下に菌糸を張り巡らし、ときおり地上に姿を顕すキノコの世界に深い関心を寄せており、キノコをモチーフにした作品も数多く制作。日常にありふれたものに少しの間隙を加える、あるいは天地を入れ替えたり、裏返したりすることで、日常と表裏一体にある深遠な世界を観る人に想起させている。

平成3年からは京都精華大学で教鞭を執り、後進の育成にも尽力している。平成27年京都美術文化賞受賞。

<略歴>

- ・大阪府出身
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修了（昭和58年）

<現在>

- ・京都精華大学非常勤講師

<受賞歴>

- ・中原悌二郎賞優秀賞（平成19年）
- ・京都美術文化賞（平成27年）

<主な活動等>

- ・六本木クロッシング：日本美術の新しい展望2004（森美術館／東京／平成16年）
- ・【個展】三つの個展：伊藤存×今村源×須田悦弘（国立国際美術館／大阪／平成18年）
- ・【個展】連菌術（伊丹市立美術館／兵庫／平成18年）
- ・【個展】（ギャラリーノル／大阪／平成21、23、29、令和3年）
- ・【個展】Shizubi Project 3－わた死としてのキノコ・今村源（静岡市美術館／平成25年）
- ・BOOK ART 2013-14 Japan-Korea 本の分裂－柵と机－（中之島デザインミュージアム de sign de>／大阪／平成26年）
- ・【個展】パラパラパラ（ARTZONE／京都／平成30年）
- ・パラレル・クロッシング エキシビジョン 3：おもかげおこしふくわらひ 井上明彦+今村源+日下部一司+三嶽伊紗+アート・メッセンジャーinシーズ（徳島県立近代美術館ギャラリー／平成30年）、同展（art space co-jin／京都／平成31年）
- ・起点としての80年代（金沢21世紀美術館、高松市美術館／石川、香川／平成30年）、同展（静岡市美術館／令和元年）
- ・リボン アート・フェスティバル 2019（牡鹿半島、網地島、石巻市街地、松島湾／宮城／令和元年）
- ・疎密考（和歌山県立近代美術館／令和3年）
- ・感覚の領域 今、「経験する」ということ（国立国際美術館／大阪／令和4年）
- ・【個展】「今村源 遅れるものの行方」展（水戸芸術館／茨城／令和5年）

<京都市との関わり>

- ・夏休み企画展「うたかたさんぽ－今村源とこどもたち」（京都芸術センター／平成17年）
- ・東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」（京都芸術センター／平成29年）

<代表作等>



《ヒカリにかえる》（平成29年）



《流れること / 留めること》（令和3年）

大野 克夫 おおの かつお (84歳)

音楽 (ロック・作曲) / 東京都港区



【功績】

京都市に生まれる。幼少期から様々な楽器に親しみ、昭和33年に京都市立堀川高等学校を卒業後、「ゲリー石黒とサンズ・オブ・ウエスト」のスチールギター奏者としてプロ入り。昭和37年には「田辺昭知とザ・スパイダース」に加入し、楽器演奏のほか、作曲も手掛けた。その後、「PYG」や「井上堯之バンド」のメンバーとして活動し、昭和55年に「大野克夫バンド」を結成。昭和52年にレコード大賞、日本歌謡大賞などの各賞を受賞した沢田研二氏の「勝手にしやがれ」のほか、多数のアーティストへ楽曲を提供。「コミック雑誌なんかいいらない!」、「木村家の人びと」などの映画音楽、「太陽にほえろ!」、「傷だらけの天使」などのテレビ音楽でも数々の名作を生み出している。作曲家・編曲家・音楽プロデューサーとして幅広いフィールドで活躍しており、近年では「名探偵コナン」シリーズの音楽を手掛けている。

作曲家・編曲家・音楽プロデューサー

<略歴>

- ・京都市出身
- ・京都市立堀川高等学校卒業 (昭和33年)
- ・バンド「ゲリー石黒とサンズ・オブ・ウエスト」に加入し、スチールギターを担当 (昭和33~37年)
- ・バンド「田辺昭知とザ・スパイダース」に加入し、オルガン等を担当 (昭和37~45年)
- ・「田辺昭知とザ・スパイダース」解散後、バンド「PYG」(昭和46~47年)、「井上堯之バンド」(昭和46~55年)のキーボード奏者、作曲家として活動
- ・「井上堯之バンド」解散後、「大野克夫バンド」を結成し、活動を続ける (昭和55年~)

<現在>

- ・グレイス所属

<主な受賞歴等>

- ・ミュージックライブ誌人気キーボード奏者1位 (昭和48年)
- ・沢田研二氏に提供 (作曲) した楽曲「勝手にしやがれ」(昭和52年) が日本レコード大賞、日本歌謡大賞ほか、各賞を受賞
- ・JASRAC賞国際賞 (アニメ楽曲「名探偵コナンBGM」) / 平成19年)
- ・JASRAC賞特別表彰銀賞 (楽曲「居酒屋」) / 平成24年)
- ・JASRAC賞銀賞 (アニメ楽曲「名探偵コナンBGM」) / 平成29年)

<主な活動等>

- ・沢田研二氏をはじめ、様々なアーティストに楽曲を提供するほか、映画音楽やテレビの伴奏音楽を多数手掛ける。

【歌】

「時の過ぎゆくまにに」(昭和50年)、「勝手にしやがれ」(昭和52年)、「ブーツをぬいで朝食を」(昭和53年)、「沈丁花」(昭和53年)「横浜いれぶん」(昭和53年)、「ダーリング」(昭和53年)、「ヤマトより愛をこめて」(昭和53年)、「LOVE (抱きしめたい)」(昭和53年)、「居酒屋」(昭和57年) ほか

【映画音楽】

「炎の肖像」(昭和49年)、「パリの哀愁」(昭和51年)、「水のないプール」(昭和57年)、「野獣刑事」(昭和57年)「十階のモスキート」(昭和58年)、「コミック雑誌なんかいいらない!」(昭和61年)、「木村家の人びと」(昭和63年)、「劇場版名探偵コナン」シリーズ (平成9年~) ほか

【テレビ音楽】

「太陽にほえろ!」(昭和47~61年)、「傷だらけの天使」(昭和49~50年)、「寺内貫太郎一家」(昭和49年)、「悪魔のようなあいつ」(昭和50年)、「ただいま放課後」(昭和55~56年)、「終着駅ser.」(平成2年~令和4年)、「本当にあった怖い話」(平成4年)、「揺れる想い」(平成7年)、「名探偵コナン」(平成8年~) ほか

<代表作等> 作曲作品 (※作品画像は受章に関連した広報等で使用する場合に限り転載等可)



「勝手にしやがれ」(昭和52年)



「居酒屋」(昭和57年)



「名探偵コナン」(令和3年)

児玉 靖枝

こだま やすえ (62歳)

洋画／京都市左京区



【功績】

昭和61年、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。1980年代前半、静物をモチーフに「ものがあるということ」を手掛かりに精緻な描写によって存在を捕らえることから絵画の世界に入る。描く対象よりも画面上で起こる出来事そのものに興味を持つようになり、90年代は具象から離れ絵画の可能性を探求するためにシンプルな色彩と身体性を伴うストロークによる抽象絵画を展開。2000年以降、自身を取り囲む世界や他者の〈見ること〉を確かめるために再び具象に転じ、近年は日常の中で感受する非日常的光景をモチーフとし、具象のなかの抽象性を際立たせることで存在の気配を喚起させる絵画を描きながら〈まなざし〉を問う試みを続けてきた。常に絵画の空間性について思考しており、自身が感受している世界の手触りを絵画に翻訳することで、絵画という空間で世界の在り様—不可知な存在の陰翳や奥行きを捉える可能性を探求している。平成11年に京都府文化賞奨励賞、令和3年に京都美術文化賞を受賞。

<略歴>

- ・兵庫県神戸市出身
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了（昭和61年）
- ・成安造形大学特別任用准教授（平成14～22年）
- ・宝塚大学造形芸術学部制作力創造学科洋画研究室教授（平成24～31年）
- ・京都市立芸術大学美術学部特任教授（平成31～令和5年）

<現在>

- ・無所属

<主な受賞歴等>

- ・京都市立芸術大学作品展大学院賞・華楊賞（昭和61年）
- ・次代を担う作家展大賞（平成3年）、同準大賞（平成5年）
- ・京都府文化賞奨励賞（平成11年）
- ・兵庫県芸術奨励賞（平成17年）
- ・亀高文子記念赤艸社賞（平成22年）
- ・京都美術文化賞（令和3年）

<主な活動等>

- ・【個展】（アートスペース虹／京都／昭和61、平成元、17、21、22、27年）
- ・【個展】（Oギャラリーeyes／大阪／平成17、19、21、23、25、28、30、令和2、4年）
- ・DIALOGUES Painters' Views on the Museum Collection（滋賀県立近代美術館／平成19年）
- ・LINK—しなやかな逸脱（兵庫県立美術館／平成21年）
- ・【個展】（MEM／東京／平成23、26、28、30、令和5年）
- ・クインテット—五つ星の作家たち（損保ジャパン東郷青児美術館／東京／平成26年）
- ・モネ—それからの100年（名古屋市美術館、横浜美術館／愛知、神奈川／平成29年）
- ・みつめる—見ることの不思議と向き合う作家たち—（群馬県立館林美術館／令和元年）
- ・それぞれのながめ（徳島県立近代美術館／令和2年）
- ・それはまなざしか（アトリエみつしま／京都／令和3年）
- ・【個展】（京都トアロード画廊／令和4年）
- ・ACG Reflections 1 : Lines—児玉靖枝・中里斉・八田豊（ARTCOURT Gallery／大阪／令和5年）

<京都市との関わり>

- ・新incubation 4「ゆらめきとけゆく—児玉靖枝×中西哲治展」（京都芸術センター／平成24年）
- ・京都市美術館協議会委員（平成27～令和3年）

<代表作等>



《深韻—雨 三》《深韻—雨 四》《深韻—雨 二》
（平成22年）



《asile-white splash 10》（令和2年）

佐藤 洋一郎 さとう よういちろう (71歳)

学術 (食文化) / 静岡市葵区



【功績】

昭和54年、京都大学大学院農学研究科農学専攻修士課程修了。総合地球環境学研究所副所長、京都産業大学教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事などを経て、令和3年からはふじのくに地球環境史ミュージアムの館長を務める。育種学からDNA分析を活用した稲作の起源、農耕の起源、農協と環境の関係史などを研究。食文化、和食文化にも精通しており、「和食文化学」の創生に尽力した。

平成25年の「和食;日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録を契機とし、平成30年に設立された「和食文化学会」では初代会長、平成31年に京都府立大学に開設された「和食文化学科」では特別専任教授を務めた。

著書の出版のほか、「食」をテーマとした講演活動にも精力的に取り組んでいる。

<略歴>

- ・和歌山県出身
- ・京都大学大学院農学研究科農学専攻修士課程修了 (昭和54年)
- ・京都大学農学博士取得 (昭和61年)
- ・総合地球環境学研究所教授 (平成15~25年)
- ・総合地球環境学研究所副所長 (平成20~25年)
- ・京都産業大学教授 (平成25~27年)
- ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事 (平成27~30年)
- ・和食文化学会初代会長 (平成30~令和3年)
- ・京都府立大学文学部和食文化学科特別専任教授 (平成30~令和5年)

<現在>

- ・京都府立大学文学部和食文化学科客員教授
- ・総合地球環境学研究所名誉教授
- ・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長

<主な受賞歴等>

- ・松下幸之助花の万博記念賞記念奨励賞 (平成13年)
- ・NHK静岡放送局「あけぼの賞」 (平成13年)
- ・濱田青陵賞 (平成16年)

<主な活動等>

- ・『DNAが語る稲作文明 起源と展開』(日本放送出版協会/平成8年)
- ・『DNA考古学』(東洋書店/平成11年)
- ・『稲の日本史』(KADOKAWA/平成14年)
- ・『イネの文明 人類はいつ稲を手にしたか』(PHP研究所/平成15年)
- ・『クスノキと日本人 知られざる古代巨樹信仰』(八坂書房/平成16年)
- ・『里と森の危機 暮らし多様化への提言』(朝日新聞出版/平成17年)
- ・『よみがえる緑のシルクロード 環境史学のすすめ』(岩波書店/平成18年)
- ・『イネの歴史』(京都大学学術出版会/平成20年)
- ・『知ろう食べよう世界の米』(岩波書店/平成24年)
- ・『稲と米の民族誌 アジアの稲作景観を歩く』(NHKブックス/平成28年)
- ・『食の人類史 ユーラシアの狩猟・採集、農耕、遊牧』(中央公論新社/平成28年)
- ・『米の日本史 - 稲作伝来、軍事物資から和食文化まで』(中央公論新社/令和2年)
- ・『京都の食文化 歴史と風土がはぐくんだ「美味しい街」』(中央公論新社/令和4年)
- ・『和食の文化史 各地に息づくさまざまな食』(平凡社/令和5年)

<代表作等>



『京都の食文化
歴史と風土がはぐくんだ「美味しい街」』
(中央公論新社/令和4年)



『和食の文化史
各地に息づくさまざまな食』
(平凡社/令和5年)

西川 祐子 にしかわ ゆうこ (86歳)

学術 (文学研究・ジェンダー論) / 京都市左京区



【功績】

昭和41年、京都大学大学院文学研究科博士課程修了。その後パリに留学し、昭和44年にパリ大学で文学博士号を取得した。帝塚山学院大学、中部大学や市民講座の講師等を経て、平成8年に京都文教大学の教授となった後、平成18年からは人間学研究所所長を務め、現在は名誉教授である。

日本とフランスの近現代文学研究、女性史、ジェンダー論を専門とし、深い考察と幅広い視点から歴史を緻密に読み解き、多数の著書を発表。平成29年に出版した『古都の占領 生活史からみる京都 1945-1952』では、10年を超えるフィールドワークや多様な文献の分析を基に、自身も経験した占領下の京都を「生活史」という独自のアプローチで描述しており、多角的な戦後史研究が評価され、京都新聞大賞文化学術賞を受賞した。

<略歴>

- ・東京都生まれ、京都府で育つ
- ・京都大学大学院文学研究科博士課程修了 (昭和41年)
- ・パリ大学で文学博士号取得 (昭和44年)
- ・京都文教大学人間学部教授 (平成8～20年)
- ・京都文教大学人間学研究所所長 (平成18～20年)

<現在>

- ・京都文教大学名誉教授

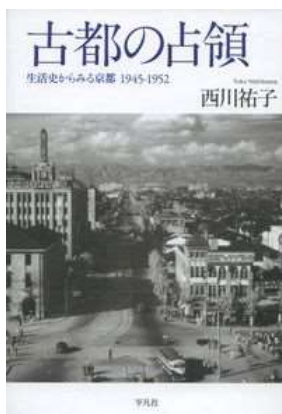
<主な受賞歴等>

- ・京都新聞大賞文化学術賞 (平成29年)
 (『古都の占領 生活史からみる京都 1945-1952』 (平凡社/平成29年))

<主な活動等>

- ・『森の家の巫女 高群逸枝』 (新潮社/昭和57年) / 新書版 (第三文明社/平成2年)
- ・『女性とは何か (上・下)』 (共訳/人文書院/昭和58年)
- ・『花の妹 岸田俊子伝』 (新潮社/昭和61年) / 文庫版 (岩波書店/令和元年)
- ・『私語り樋口一葉』 (リプロポート/平成4年) / 文庫版 (岩波書店/平成23年)
- ・『借家と持ち家の文学史「私」のうつわの物語』 (三省堂/平成10年) / 【増補】文庫版 (平凡社/令和5年)
- ・『共同研究 男性論』 (共著/人文書院/平成11年)
- ・『近代国家と家族モデル』 (吉川弘文館/平成12年)
- ・『京都フィールドワークのススメ ある・みる・きく・よむ』 (共著/昭和堂/平成15年)
- ・『住まいと家族をめぐる物語 男の家、女の家、性別のない部屋』 (集英社/平成16年)
- ・『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ 鶴見和子文庫との対話・未来への通信』 (共著/日本図書センター/平成21年)
- ・『日記をつづるとのこと 国民教育装置とその逸脱』 (吉川弘文館/平成21年)
- ・『フェミニズムの時代を生きて』 (共著/岩波書店/平成23年)
- ・『京都発!ニュータウンの「夢」建てなおします 向島からの挑戦』 (共著/昭和堂/平成27年)
- ・『古都の占領 生活史からみる京都 1945-1952』 (平凡社/平成29年)

<代表作等>



『古都の占領 生活史からみる京都 1945-1952』
(平凡社/平成29年)



『【増補】借家と持ち家の文学史「私」のうつわの物語』
(平凡社/令和5年)

西久松 吉雄

にしひさまつ よしお (70歳)

日本画／京都府亀岡市



【功績】

昭和54年、京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了。京都市立銅駝美術工芸高等学校（現 京都市立美術工芸高等学校）や成安造形大学などで長年教鞭を執る。現在は成安造形大学の名誉教授であり、浜田市立石正美術館館長を務める。平成22年に京都美術文化賞、令和2年に京都府文化賞功労賞を受賞。

山河、里、古墳、神社の杜、巨樹、巨石、磐座などの「日本の風景」をテーマに、深い精神性をたたえる作品を数多く発表。日本の風土を感受しながら、歴史や人々の暮らしの中から生まれ伝えられてきた風習、故事や伝説、信仰などが刻まれた地を訪れて、その土地の記憶を絵に描き留めてきた。日本画の伝統や技術を継承しながらも、他に類を見ない独創性のある表現と力強くスケールの大きい画風は、高い評価を得ている。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了（昭和54年）
- ・京都市立銅駝美術工芸高等学校教諭（平成3～10年）
- ・成安造形大学教授（平成14～30年）
- ・成安造形大学附属近江学研究所所長（平成28～令和2年）

＜現在＞

- ・成安造形大学名誉教授
- ・成安造形大学客員教授
- ・京都成安学園理事
- ・浜田市立石正美術館館長
- ・京都日本画家協会監事
- ・一般社団法人創画会常務理事

＜主な受賞歴等＞

- ・京都日本画美術展新人賞（昭和54年）
- ・京都新聞日本画賞展大賞（平成6年）
- ・山種美術館賞展優秀賞（平成7年）
- ・京都美術文化賞（平成22年）
- ・秀明文化賞（平成27年）
- ・京都府文化賞功労賞（令和2年）
- ・紺綬褒章（令和5年）

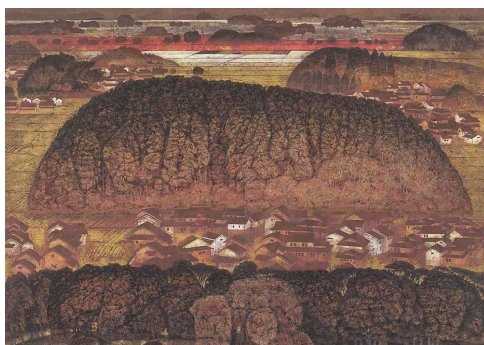
＜主な活動等＞

- ・次代を担う作家展（京都府立文化芸術会館／平成元年）
- ・京都美術工芸展選抜部門（京都文化博物館／平成9年）
- ・現代京都の日本画－気鋭の15人－展（大丸ミュージアムKYOTO／平成9年）
- ・戦後美術俊英の煌めき 文化庁買上優秀美術作品展（川崎市立美術館／埼玉／平成16年）
- ・自然学－来るべき美学のために－（滋賀県立近代美術館／平成24年）
- ・こころの京都百選完成記念特別展（京都文化博物館／平成25年）
- ・梅原猛卒寿記念－梅原猛と25人のアーティスト展（高島屋／京都・大阪・東京・神奈川・名古屋／平成26年）
- ・【個展】西久松吉雄展 祈りの地・古の風景（浜田市立石正美術館／島根／平成27年）
- ・【個展】退任記念展西久松吉雄－地のかたち（成安造形大学ギャラリーアートサイト／滋賀／平成30年）
- ・西久松吉雄・綾・友花展－地のかたち・水のめぐみ・土のちから（中信美術館／京都／令和元年）
- ・かめおか霧の芸術祭 城跡芸術展（丹波亀山城跡／京都／令和4、5年）
- ・【個展】西久松吉雄展－地の恵み（ギャラリーヒルゲート／京都／令和5年）

＜京都市との関わり＞

- ・美術選抜展（京都市美術館／昭和61年、平成元、4年）
- ・「京都21」大行灯「埴輪」出品（京都市主催／平成12年）
- ・生誕100年 回顧展 石本正 記念講演会「石本正 中世ロマネスク美術の旅」講師（京都市京セラ美術館／令和5年）

＜代表作等＞



《古墳のある風景》（平成7年）



《古地層》（平成29年）

藤山 直美 ふじやま なおみ (64歳)

演劇 (俳優) / 京都市山科区



【功績】

昭和を代表する喜劇役者である藤山寛美氏の三女として大阪市に生まれ、幼少期に京都市に転居。3歳の時、父が主演のNHKテレビドラマ「初代桂春団治」でデビューし、以降、舞台を中心にテレビドラマや映画などで幅広く活躍。数多くの役柄を演じ、NHK朝の連続テレビ小説「おんなは度胸」、「芋たこなんきん」などで人気女優となる。

平成28年には映画「団地」で主演を務め、アジア最大級の映画祭「上海国際映画祭」コンペティション部門で日本人初となる金爵賞最優秀女優賞を受賞した。現在も第一線で活躍を続ける「喜劇の女王」であり、コメディからシリアスなもので巧みな演技力をみせ、観る人の目や心をとらえて離さない女優として評価されている。

令和2年に紫綬褒章、令和3年に京都府文化賞功労賞を受章（賞）。

本名 稲垣 直子 (いながき なおこ)

<略歴>

- ・大阪市で生まれ、京都市で育つ
- ・父・藤山寛美氏主演のNHKテレビドラマ「初代桂春団治」でデビュー（昭和37年）
- ・ミュージカル「見上げてごらん夜の星を」で子役オーディションに合格し初舞台（昭和38年）
- ・京都女子高等学校卒業（昭和53年）

<現在>

- ・稲垣直子事務所所属

<主な受賞歴等>

- ・京都府文化賞奨励賞（平成8年）
- ・芸術選奨文部大臣新人賞（舞台「夫婦善哉」/平成9年）
- ・毎日映画コンクール女優主演賞等4つの賞を受賞（映画「顔」/平成12、13年）
- ・やましな栄誉賞（平成19年）
- ・上海国際映画祭金爵賞最優秀女優賞（映画「団地」/平成28年）
- ・文化庁芸術祭演劇部門大賞、芸術選奨演劇部門文部科学大臣賞（舞台「おもしろい女」/平成30年）
- ・読売演劇大賞優秀女優賞（舞台「おもしろい女」/平成31年）
- ・紫綬褒章（令和2年）
- ・京都府文化賞功労賞（令和3年）

<主な活動等>

- ・NHK連続テレビ小説「おんなは度胸」出演（平成4年）
- ・映画「顔」主演（平成12年）
- ・NHK連続テレビ小説「芋たこなんきん」主演（平成18年）
- ・舞台「妻をめとらば～晶子と鉄幹～」主演（明治座/東京/平成19年）
- ・毎日放送秋のドラマ特別企画「最強のオンナ」主演（平成26年）
- ・舞台「笑門には福来る～女興行師 吉本せい～」主演（大阪松竹座/平成26年）
- ・毎日放送新春ドラマ特別企画「最強のオヤコ」主演（平成28年）
- ・映画「団地」主演（平成28年）
- ・舞台「おもしろい女」主演（シアタークリエほか/東京ほか全9都市/平成30年）
- ・舞台「喜劇 道頓堀ものがたり」主演（南座/京都/令和元年）
- ・テレビ東京開局55周年特別企画 新春ドラマスペシャル「最後のオンナ」主演（令和2年）
- ・舞台「おあきと春団治」主演（新橋演舞場/東京/令和3年）
- ・舞台「大阪ざらい物語」主演（大阪松竹座、新橋演舞場/大阪、東京/令和4年）
- ・舞台「藤山寛美三十三回忌追善喜劇特別公演」主演（大阪松竹座、新橋演舞場、南座/大阪、東京、京都/令和4年）
- ・舞台「泣いたらあかん」主演（新歌舞伎座、博多座/大阪、福岡/令和5年）
- ・舞台「錦秋喜劇特別公演」主演（南座/京都/令和5年）

<代表作等>



舞台「おもしろい女」主演
(シアタークリエほか/
東京ほか全9都市/平成30年)

(写真提供 東宝演劇部)



舞台「喜劇 道頓堀ものがたり」主演
(南座/京都/令和元年)

(写真提供 松竹株式会社)

八木 明 やぎ あきら (68歳)

陶芸／京都市東山区



【功績】

陶芸家である祖父・八木一艸氏、父・八木一夫氏の長男として京都市に生まれる。昭和52年に京都府陶工専修職業訓練校（現 京都府立陶工高等技術専門学校）を卒業後、父に師事し、本格的に陶芸の道に入る。

磁器土を素材に伝統的な技法を用いつつ、現代的な感覚で、独自の造形美により存在感を放つ作品を数多く手掛けている。緻密な計算と卓越した轆轤技術を駆使して制作される清新な青白磁や、同型・寸法違いの多数の器で構成する「入れ子」などの空間表現は、国内外で高く評価されている。

また、瓜生山学園京都芸術大学で教鞭を執り、後進の育成にも尽力した。

平成5年京都市芸術新人賞、平成20年京都府文化賞功労賞、平成21年京都美術文化賞を受賞。

<略歴>

- ・京都市出身
- ・京都府陶工専修職業訓練校卒業後、父・八木一夫氏に師事（昭和52年）
- ・文化庁在外研修特別派遣（平成9年）
- ・京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）教授（平成15～27年）

<現在>

- ・東洋陶磁学会会員
- ・日本陶磁協会会員
- ・京都工芸美術作家協会会員

<主な受賞歴等>

- ・京都市芸術新人賞（平成5年）
- ・京都府文化賞奨励賞（平成9年）
- ・日本陶磁協会賞（平成11年）
- ・MOA岡田茂吉賞工芸部門優秀賞（平成12年）
- ・紺綬褒章（平成18年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成20年）
- ・京都美術文化賞（平成21年）

<主な活動等>

- ・京都の工芸1945～2000（京都・東京国立近代美術館／平成13年）
- ・白磁・青磁の世界展（茨城県陶芸美術館／平成15年）
- ・Contemporary Clay: Japanese Ceramics for the New Century（ボストン美術館／アメリカ／平成17年）
- ・梅原猛と10人のアーティスト展（中信美術館／京都／平成23年）
- ・現代の座標 工芸をめぐる11の思考（東京国立近代美術館／平成24年）
- ・英国リーチ工房にて制作（平成24年）
- ・琳派400年記念「京に生きる琳派の美」（京都文化博物館／平成27年）
- ・革新の工芸－“伝統と前衛”、そして現代－（東京国立近代美術館／平成28年）
- ・Kyoto: Capital of Artistic imagination（メトロポリタン美術館／アメリカ／平成30年）
- ・創立75周年記念 京都工芸美術作家協会展－煌・KIRAMEKI－（京都文化博物館／令和3年）
- ・【個展】「八木 明－磁の流れ－」展（中信美術館／京都／令和4年）
- ・Au Passage 4人の個展－競馬場のパサージュにて（JRA京都競馬場／令和5年）
- ・Tiny Treasures: The Magic of Miniatures（ボストン美術館／アメリカ／令和5年）

<京都市との関わり>

- ・平安建都1200年記念美術選抜展（京都市美術館／平成6年）

<代表作等>



《青白磁球入れ子蓋物》（平成18年）



《青白磁対面取蓋物 尾身重治撮影》（平成16年）

山極 壽一 やまぎわ じゅいち (71歳)

学術 (人類学・霊長類学) / 京都市中京区



【功績】

昭和55年に京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学後、財団法人日本モンキーセンターリサーチフェロー、京都大学大学院理学研究科長・理学部長などを経て、平成26年から令和2年まで第26代京都大学総長。霊長類研究・ゴリラ研究の第一人者として、豊穡な知見を基に、質の高い教育、高度な学術研究に力を注ぐとともに、地域連携・産官学連携を推進し、「大学のまち・学生のまち京都」を力強く先導した。現在は、総合地球環境学研究所所長、公益財団法人京都市芸術文化協会理事長ほか多数の役職を務める。

京都市動物園「生き物・学び・研究センター」の創設に尽力し、学術文化の担い手の育成や環境づくりに貢献したほか、国際学会や留学生等の誘致、観光分野の人材育成など幅広い分野で京都の活性化に大きく寄与した。

＜略歴＞

- ・東京都出身
- ・京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学 (昭和55年)
- ・京都大学理学博士取得 (昭和62年)
- ・財団法人日本モンキーセンターリサーチフェロー (昭和58～63年)
- ・京都大学大学院理学研究科教授 (平成14～26年)
- ・京都大学大学院理学研究科長・理学部長 (平成23～25年)
- ・京都大学総長 (平成26～令和2年)
- ・一般社団法人国立大学協会会長 (平成29～令和元年)
- ・日本学術会議会長 (平成29～令和2年)

＜現在＞

- ・総合地球環境学研究所所長
- ・京都大学名誉教授
- ・京都府国際センター理事長
- ・公益財団法人京都市芸術文化協会理事長 ほか多数

＜主な受賞歴等＞

- ・大同生命地域研究奨励賞 (平成18年)
- ・日本人類学会功労賞 (平成30年)
- ・京都市特別功労賞 (令和2年)
- ・南方熊楠賞 (令和3年)
- ・アカデミア賞 (令和5年)
- ・京都府文化賞特別功労賞 (令和5年)

＜主な活動等＞

- ・『暴力はどこからきたか－人間性の起源を探る』(NHK出版/平成19年)
- ・『家族進化論』(東京大学出版会/平成24年)
- ・『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』(毎日新聞出版/平成30年)
- ・『スマホを捨てたい子どもたち』(ポプラ社/令和2年)
- ・『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』(朝日新聞出版/令和3年)
- ・『猿声人語－進化の途上でこの社会を考える』(青土社/令和4年)
- ・『動物たちは何をしゃべっているのか?』(共著/集英社/令和5年)
- ・『共感革命－社交する人類の進化と未来』(河出書房新社/令和5年)

＜京都市との関わり＞

- ・京都市文化功労者審査会委員 (令和元年～令和5年)
- ・京都市専門委員、京都市動物園名誉園長 (令和3年～)
- ・京都市立芸術大学客員教授 (令和3年～)
- ・京都文化芸術都市創生審議会委員 (令和4年～) ほか多数

＜代表作等＞



『暴力はどこからきたか
－人間性の起源を探る』
(NHK出版/平成19年)



『共感革命
－社交する人類の進化と未来』
(河出書房新社/令和5年)

令和5年度 京都市文化功労者審査会委員

*50音順、敬称略

氏 名	職 業(役 職)
赤松 玉女	京都市立芸術大学(京都芸大)学長
天野 文雄	大阪大学名誉教授、能楽研究
佐々木 丞平	京都国立博物館名誉館長、京都大学名誉教授
篠原 資明	国立美術館運営委員会会長、京都大学名誉教授
福本 潮子	染美術家
三井 ツヤ子	声楽家、京都市立芸術大学(京都芸大)名誉教授
森田 りえ子	京都市立芸術大学(京都芸大)客員教授
鷺田 清一	京都市立芸術大学(京都芸大)名誉教授
吉田 良比呂	京都市副市長

京都市文化功労者受章者一覧（過去3年分）

表彰年度	氏名	分野
令和4年度	小倉 淳史	染織
	加藤 登紀子	音楽（歌謡曲）
	河村 和重	能楽
	清水 六兵衛（八代）	陶芸
	栗木 京子	文学（短歌）
	建畠 哲	学術（美術）、文学（詩）
	中原 浩大	現代美術
	西野 陽一	日本画
	山部 泰司	洋画
令和3年度	石川 九楊	書
	北大路 欣也	映画・演劇（俳優）
	熊倉 功夫	学術（日本文化）
	佐藤 文隆	学術（理論物理学）
	沢田 研二	音楽（ロック・ポップス）、映画・演劇（俳優）
	田端 泰子	学術（歴史）
	藤本 由紀夫	現代美術
	前川 光長	能楽
	村上 良子	染織
	十四世面庄 面屋 庄甫	人形
令和2年度	浅野 均	日本画
	黒田 アキ	現代美術
	佐野 藤右衛門（十六代）	造園・桜守
	杉 市和	能楽
	店村 眞積	音楽（洋楽）
	長艸 敏明	京繡
	中ハシ 克シゲ	彫刻
	山折 哲雄	学術（宗教学）